

# 安全データシート (Safety Data Sheet)

## マイクロジッド® プレミアムワイプ

JIS Z 7252 : 2019、7253 : 2019 準拠、国連 GHS 改訂第 7 版対応

作成日 : 2021 年 2 月 18 日

改定日 : 2021 年 10 月 19 日

Version: 2.0

### 1. 化学品及び会社情報

- 1.1 名称 マイクロジッド® プレミアムワイプ
- 1.2 推奨用途 環境表面の清拭
- 1.3 会社情報 (供給者)  
シュルケ・ジャパン合同会社  
〒108-0075 東京都港区港南 2-16-1 品川イーストワンタワー7階  
電話番号 : 03-6894-3335
- 1.4 緊急連絡電話番号 03-6894-3335

### 2. 危険有害性の要約

- 2.1 GHS 分類 引火性液体 : 区分 3  
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : 区分 2A  
発がん性 : 区分 1A  
生殖毒性 : 区分 1A  
特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : 区分 1 (中枢神経系)  
特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : 区分 1 (肝臓 血液)  
上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

#### 2.2 GHS ラベル要素

##### 2.2.1 GHS における絵表示



##### 2.2.2 注意喚起語 危険

- 2.2.3 危険有害性情報 H226 : 引火性液体及び蒸気  
H319 : 強い眼刺激  
H350 : 発がんのおそれ  
H360 : 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ  
H370 : 中枢神経系の障害  
H372 : 長期にわたる、又は反復ばく露による肝臓、血液の障害

##### 2.2.4 注意書き

- (安全対策)
- P210 : 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
- P260 : ガスを吸入しないこと。
- P280 : 保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- (応急処置)
- P305+P351+P338 : 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

# 安全データシート (Safety Data Sheet)

## マイクロジッド® プレミアムワイブ

JIS Z 7252 : 2019、7253 : 2019 準拠、国連 GHS 改訂第 7 版対応

作成日 : 2021 年 2 月 18 日

改定日 : 2021 年 10 月 19 日

Version: 2.0

P308+P313 : ばく露又はその懸念がある場合、医師の手当、診断を受けること。

(廃棄)

P501 : 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

2.2.5 GHS 分類に該当 データなし  
しない他の危険有害性

### 3. 組成及び成分情報

3.1 化学物質・混合物の区別 混合物

3.2 化学名又は一般名 薬液 (エタノール、イソプロパノール、界面活性剤、水)、不織布

3.3 成分情報

	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
不織布に薬液を含浸 (薬液にはエタノールとイソプロパノールを含む)	非公開	非公開	各成分既存	各成分既存	登録有 (非公開)

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 : 情報なし

労働安全衛生法 名称等を通知すべき危険物及び有害物 : イソプロパノール (17.4%)  
エタノール (12.6%)

### 4. 応急措置

吸入した場合	空気の清浄な場所に移して安静にし、医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	多量の水で洗い流す。症状が出た場合は、必要に応じて医師の診断を受ける。
眼に入った場合	直ちに清浄な流水で充分洗眼し、必要に応じて医師の処置を受ける。コンタクトレンズは可能であれば取り除いて洗浄する。
飲み込んだ場合	水で口の中を洗浄し、コップ 1~2 杯の水または牛乳を飲ませる。直ちに医師の処置を受ける。被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。
応急措置をする者の保護	救護者はゴーグル、ゴム手袋等の適切な保護具を着用する。

### 5. 火災時の措置

- 5.1 消火剤 消火する時は、粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水等の消火剤を用いて消火する。
- 5.2 使ってはならない消火剤 棒状の水
- 5.3 特有の危険有害性 燃焼ガスには、一酸化炭素等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。

# 安全データシート (Safety Data Sheet)

## マイクロジッド® プレミアムワイプ

JIS Z 7252 : 2019、7253 : 2019 準拠、国連 GHS 改訂第 7 版対応

作成日 : 2021 年 2 月 18 日

改定日 : 2021 年 10 月 19 日

Version: 2.0

- 5.4 特有の消火方法 火元への燃焼を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火作業は、可能な限り風上から行う。関係者以外は安全な場所に退避させる。周囲の設備などに散水して冷却する。製品もしくは化学物質が河川や下水に流出しないよう適切な措置を行う。
- 5.5 消火を行う者の保護 消火作業は、適切な保護具（手袋、保護眼鏡、防毒マスク等）を着用する。燃焼ガスには、一酸化炭素等の有毒ガスが含まれるので、消火作業の際には、煙の吸入を避ける。

### 6. 漏出時の措置

- 6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 作業の際には皮膚に直接触れないように必ず保護具（手袋、保護眼鏡、防毒マスクまたは防塵マスク等）を着用する。風上から作業をし、漏出した場所の周囲には、関係者以外の人の立ち入りを禁止する。必要に応じた換気を確保する。
- 6.2 環境に対する注意事項 流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。
- 6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材、回収、中和などの浄化方法 少量の場合、吸着剤（おがくず・土・砂・ウェス等）で吸着させ取り除いた後、残りをウェス、雑巾等でよく拭き取る。大量の水で洗い流す。多量の場合、盛り土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてからドラム等に回収する。
- 6.4 二次災害の防止策 床に漏れた状態で放置すると、滑り易くスリップ事故の原因となるため注意する。漏出物の上をむやみに歩かない。回収物の収納容器は、内容物の処分を行うまで密閉しておく。

### 7. 取り扱い及び保管上の注意

- 7.1 取扱い時の技術的対策 (技術的対策)  
取扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。容器を粗暴に扱わない。火気を近づけないようにする。  
(安全取扱注意事項)  
保護眼鏡、保護手袋等の適切な保護具を着用。取扱い後は、手、顔等を良く洗い、うがいをする。  
(接触回避)  
『10. 安定性及び反応性』を参照。
- 7.2 保管時の技術的対策 保管場所の床は製品が浸透しない構造、取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。  
(安全な保管条件)  
直射日光を避け、冷所（1~20℃）に、容器を密閉して保管する。  
火気厳禁。
- 7.3 安全な容器包装材料 製品使用容器に準ずる。

# 安全データシート (Safety Data Sheet)

## マイクロジッド® プレミアムワイプ

JIS Z 7252 : 2019、7253 : 2019 準拠、国連 GHS 改訂第 7 版対応

作成日 : 2021 年 2 月 18 日

改定日 : 2021 年 10 月 19 日

Version: 2.0

### 8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度 (産衛学会)	許容濃度 (ACGIH)
エタノール			TWA ー、 STEL 1000 ppm
イソプロパノール			未設定

- 8.1 設備対策 蒸気またはガスやミストが発生する場合は、局所排気装置を設置する。  
取扱い場所の近くに、洗眼および身体洗浄のための設備を設置する。
- 8.2 保護具 呼吸器の保護具：必要により有機溶剤用防毒マスクを着用する。  
手の保護具：必要により保護手袋を着用する。  
眼の保護具：必要により側板付き保護眼鏡を着用する。  
皮膚及び身体の保護具：必要により長袖作業衣、安全靴を着用する。

### 9. 物理的及び化学的性質

外観 (物理的状態、形状、色)	固体、シート状、白色
臭い	特異臭
臭いの閾値	データなし
pH	2.5~4.0
融点・凝固点	データなし
分解温度	データなし
沸点	データなし
引火点	25.5°C (タグ密閉式、薬液として)
蒸発速度	データなし
可燃性 (固体、ガス)	データなし
爆発限界 (範囲)	下限 : 3.3vol-% (エタノール) 上限 : 19vol-% (エタノール)
蒸気圧	5.3kPa (エタノール、19°C)
蒸気密度	1.59 (エタノール、air=1)
比重 (密度)	0.95~0.96 (g/mL、20 °C、薬液として)
溶解性 (水溶解度)	不織布は水に溶解しない
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	363°C (エタノール)
粘度 (粘性率)	データなし

### 10. 安定性及び反応性

- 10.1 安定性 通常での保管や一般的な使用条件では安定。
- 10.2 危険有害反応の可能性 特になし
- 10.3 避けるべき条件 特になし
- 10.4 混触危険物質 データなし
- 10.5 危険有害な分解生成物 特になし

# 安全データシート (Safety Data Sheet)

## マイクロジッド® プレミアムワイブ

JIS Z 7252 : 2019、7253 : 2019 準拠、国連 GHS 改訂第 7 版対応

作成日 : 2021 年 2 月 18 日

改定日 : 2021 年 10 月 19 日

Version: 2.0

10.6 反応性	特になし
10.7 その他	自己反応性 : 特になし

### 11. 有害性情報

製品	皮膚腐食性 : 該当しない。 皮膚刺激性 : 皮膚を刺激するかもしれない。 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : 眼を刺激する。
エタノール	急性毒性 (経口) : ラットの LD50 値=6,200 mg/kg、11,500 mg/kg、17,800 mg/kg、13,700 mg/kg (PATTY (6 <sup>th</sup> , 2012) )、15,010 mg/kg、7,000-11,000 mg/kg (SIDS (2005) ) はすべて区分外に該当している。 急性毒性 (経皮) : ウサギの LDLo=20,000 mg/kg (SIDS (2005) ) に基づき区分外とした。 急性毒性 (吸入 : 気体) : GHS の定義における液体である。 急性毒性 (吸入 : 蒸気) : ラットの LC50=63,000 ppmV (DFGOT vol.12 (1999) )、66,280 ppmV (124.7 mg/L) (SIDS (2005) ) のいずれも区分外に該当する。なお、被験物質の濃度は飽和蒸気圧濃度、78,026 ppmV (147.1 mg/L) の 90% [70,223 ppmV (132.4 mg/L) ]より低い値であることから、ppmV を単位とする基準値を用いた。 急性毒性 (吸入 : 粉じん、ミスト) : データ不足のため分類できない。 皮膚腐食性/刺激性 : ウサギに 4 時間ばく露した試験 (OECD TG 404) において、適用 1 および 24 時間後の紅斑の平均スコアが 1.0、その他の時点では紅斑及び浮腫の平均スコアは全て 0.0 であり、「刺激性なし」の評価 SIDS (2005) に基づき、区分外とした。 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : ウサギを用いた 2 つの Draize 試験 (OECD TG 405) において、中等度の刺激性と評価されている (SIDS (2005) )。このうち、1 つの試験では、所見として角膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫がみられ、第 1 日の平均スコアが角膜混濁で 1 以上、結膜発赤で 2 以上であり、かつほとんどの所見が 7 日以内に回復した (ECETOC TR 48 (2) (1998) ) ことから、区分 2B に分類した。 呼吸器感作性 : データ不足のため分類できない。なお、アルコールによる気管支喘息症状の誘発は血中アルデヒド濃度の増加と関係があると考えられている。一方、軽度の喘息患者 2 人がエタノールの吸入誘発試験で重度の気管支収縮を起こしたことが報告されている (DFGOT vol. 12 (1999) ) が、その反応がアレルギー由来であることを示すものではないとも述べられている (DFGOT vol.12 (1999) ) 皮膚感作性 : ヒトでは、アルコールに対するアレルギー反応による接触皮膚炎等の症例報告がある (DFGOT vol. 12 (1999) ) との記述があるが、「ヒトでは他の一級または二級アルコールとの交叉反応性がみられる場合があること、動物試験で有意の皮膚感作性はみられないことにより、エタ

# 安全データシート (Safety Data Sheet)

## マイクロジッド® プレミアムワイプ

JIS Z 7252 : 2019、7253 : 2019 準拠、国連 GHS 改訂第 7 版対応

作成日：2021年2月18日

改定日：2021年10月19日

Version: 2.0

ノールに皮膚感作性ありとする十分なデータがない」(SIDS (2005)、DFGOT vol. 12 (1999)) の記述に基づきデータ不足のため分類できないとした。

生殖細胞変異原性：in vivo、in vitro の陰性結果あるいは陰性評価がされており、分類ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できないため、「分類できない」とした。すなわち、マウスおよびラットを用いた経口投与（マウスの場合にはさらに腹腔内投与）による優性致死試験において陽性結果（SIDS (2005)、IARC (2010)、DFGOT vol. 12 (1999)、PATTY (6<sup>th</sup>, 2012)）があるものの、試験条件の不十分性や試験結果の誤りなどが認められ信頼性は低い又は信頼性なしと評価している（SIDS (2005)、DFGOT vol. 12 (1999)）。また、ラット、マウスの骨髄小核試験で陰性、ラット骨髄及び末梢血リンパ球の染色体異常試験で陰性（SIDS (2005)、PATTY (6<sup>th</sup>, 2012)、IARC (2010)、DFGOT vol. 12 (1999)）、チャイニーズハムスターの骨髄染色体異常試験で陰性（SIDS (2005)）である。また、マウス精子細胞の小核試験、精母細胞の染色体異常試験、ラット精原性細胞の染色体異常試験、チャイニーズハムスターの精原細胞の染色体異常試験（異数性）で陰性である（IARC (2010)、DFGOT vol. 12 (1999)）。なお、陽性の報告として、ラット、マウスの姉妹染色分体交換試験がある（DFGOT vol. 12 (1999)、PATTY (6<sup>th</sup>, 2012)）が、SIDS (2005) などでは評価されていない。in vitro 変異原性試験として、エームス試験、哺乳類培養細胞を用いるマウスリンフォーマ試験及び小核試験はすべて陰性と評価されており（PATTY (6<sup>th</sup>, 2012)、IARC (2010)、DFGOT vol. 12 (1999)、SIDS (2005)、NTP DB (Access on June 2013)）、in vitro 染色体異常試験でも CHO 細胞を用いた試験 1 件の陽性結果を除き他はすべて陰性であった（SIDS (2005)、PATTY (6<sup>th</sup>, 2012)、IARC (2010)）。なお、この染色体異常の陽性結果は著しく高い用量で生じており、高浸透圧のような非特異的影響に起因した染色体傷害の可能性があると記載（SIDS (2005)）されている。

発がん性：エタノールは ACGIH で A3 に分類されている（ACGIH (7<sup>th</sup>, 2012)）。また、IARC (2010) では、アルコール飲料の発がん性について多くの疫学データから十分な証拠があることなどから、アルコール飲料に含まれるエタノールの摂取により、エタノール及び主代謝物であるアセトアルデヒドが食道などに悪性腫瘍を誘発することが明らかにされているため、区分 1 A に分類する。

生殖毒性：ヒトでは出生前にエタノール摂取すると新生児に胎児性アルコール症候群と称される先天性の奇形を生じることが知られている。奇形には小頭症、短い眼瞼裂、関節、四肢及び心臓の異常、発達期における行動

# 安全データシート (Safety Data Sheet)

## マイクロジッド® プレミアムワイブ

JIS Z 7252 : 2019、7253 : 2019 準拠、国連 GHS 改訂第 7 版対応

作成日 : 2021 年 2 月 18 日

改定日 : 2021 年 10 月 19 日

Version: 2.0

及び認知機能障害が含まれる (PATTY (6<sup>th</sup>, 2012))。これらはヒトに対するエタノールの生殖毒性を示す確かな証拠と考えられるため、区分 1 A とした。なお、胎児性アルコール症候群は妊娠中に大量かつ慢性的にアルコールを飲んだアルコール依存症の女性と関連している。産業的な経口、経皮、吸入ばく露による胎児性アルコール症候群の報告はない。また、動物実験でも妊娠ラットに経口投与した試験で奇形の発生がみられている。

特定標的臓器毒性 (単回ばく露) : ヒトの吸入ばく露により眼及び気道への刺激症状が報告されている (PATTY (6<sup>th</sup>, 2012))。血中エタノール濃度の上昇に伴い、軽度の中毒 (筋協調運動低下、気分、性格、行動の変化から中度の中毒 (視覚障害、感覚麻痺、反応時間遅延、言語障害)、さらに重度の中毒症状 (嘔吐、嗜眠、低体温、低血糖、呼吸抑制など) を生じる。さらに、呼吸または循環不全により、あるいは咽頭反応が欠如した場合には胃内容物吸引の結果として死に至るとも記述されている (PATTY (6<sup>th</sup>, 2012))。ヒトに加えて動物実験でも中枢神経系の抑制症状がみられている (SIDS (2005))。以上より、区分 3 (気道刺激性、麻酔作用) とした。

特定標的臓器毒性 (反復ばく露) : ヒトでのアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての臓器に悪影響を及ぼすが、もっとも強い影響を与える標的臓器は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壊死と繊維化の段階を経て肝硬変に進行する (DFGOT vol. 12 (1999)) との記載に基づき区分 1 (肝臓) とした。また、アルコール乱用及び依存症患者の治療として、米国 FDA は 3 種類の治療薬を承認しているとの記述がある (HSDB (Access on June 2013)) ことから、区分 2 (中枢神経系) とした。なお、動物実験では有害影響の発見はさほど顕著ではなく、ラットの 90 日間反復経口投与試験において、ガイダンス値範囲をかなり上回る高用量で肝臓への影響として脂肪変性が報告されている (SIDS (2005)、PATTY (6<sup>th</sup>, 2012))。

吸引性呼吸器有害性 : データ不足のため分類できない。

イソプロパノール

急性毒性 (経口) : LD50 (ラット) : 5,045 mg/kg ; IP1)、LD50 (マウス) : 3,600 mg/kg ; IP1)、LD50 (ウサギ) : 6,410 mg/kg ; IP1)

急性毒性 (経皮) : LD50 (ウサギ) : 12,800 mg/kg ; IP1)

急性毒性 (吸入 : 蒸気) : LD50 (ラット) : 16,000 ppm/8h (22,600 ppm/4h) ; IP1)

皮膚腐食性 : 該当しない

皮膚刺激性 :

・ドレイズ法 : ウサギ、500mg ; Mild ; IP1)

# 安全データシート (Safety Data Sheet)

## マイクロジッド® プレミアムワイプ

JIS Z 7252 : 2019、7253 : 2019 準拠、国連 GHS 改訂第 7 版対応

作成日 : 2021 年 2 月 18 日

改定日 : 2021 年 10 月 19 日

Version: 2.0

・ヒトでのボランティアおよびアルコール中毒患者の治療のため皮膚適用した試験では刺激性を示さない。 ; IP2)

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 :

・ドレイズ法 : ウサギ、100mg、Severe ; IP1)

・ウサギでの眼刺激性試験では、軽度から重度の刺激性の報告があるとの記述があるが、重篤な損傷性は記載されていない。 ; IP3) IP4)

生殖細胞変異原性 : in vivo でのマウス骨髄細胞を用いた小核試験で陰性であった。 ; IP5)

発がん性 : IARC : 3 : ヒトに対する発がん性について分類できない。

NTP : リストには記載されていない。

ACGIH : A4 : ヒトに対して発がん性物質として分類できない物質。

日本産業衛生学会 : リストには記載されていない。

生殖毒性 : ラットでの発育毒性・催奇形性試験では、催奇形性はなかったが、親動物に体重増加の低下、麻酔作用等の毒性を示した用量で、妊娠率の低下、呼吸杯の増加、胎児死亡の増加等の生殖毒性が認められた。(生殖能または胎児への悪影響のおそれの疑い) ; IP2) IP5) IP6)

特定標的臓器毒性 (単回ばく露) :

・ヒトで急性中毒として中枢神経抑制 (嗜眠、昏睡、呼吸抑制など)、消化管への刺激性 (吐き気、嘔吐)、血圧、体温低下、不整脈など循環器系への影響を含み、全身的に有害影響を生じる。 ; IP2) IP5) IP7)

・吸入ばく露により鼻、喉への刺激性 (咳、咽頭痛) を示す。 ; IP2)

IP7)

特定標的臓器毒性 (反復ばく露) :

・ラットでの 4 か月間蒸気吸入ばく露実験で、100mg/m<sup>3</sup> 以上で白血球数の減少が見られ、500mg/m<sup>3</sup> 群では呼吸器 (肺、気管支)、肝臓、脾臓に病理学的な影響が認められた。 ; IP2)

・吸入又は経口経路による動物試験において、麻酔作用、血液系への影響がみられている。 ; IP4) IP5)

吸引性呼吸器有害性 : ラットでの気管内投与により、24 時間以内に心肺停止による死亡が認められており、かつ、動粘性率は概略 1.6 前後であることから、吸引性呼吸器有害性があると判断した。 ; IP4) IP5)

データ不足のため「分類できない」

上記以外の有害性情報なし

## 12. 環境影響情報

### 12.1 生態毒性

イソプロパノール

魚類 LC50(96) : >100 mg/L (ヒメダカ) ; IP8)

甲殻類 EC50(48) : > 1,000 mg/L (オオミジンコ) ; IP8)

# 安全データシート (Safety Data Sheet)

## マイクロジッド® プレミアムワイプ

JIS Z 7252 : 2019、7253 : 2019 準拠、国連 GHS 改訂第 7 版対応

作成日 : 2021 年 2 月 18 日

改定日 : 2021 年 10 月 19 日

Version: 2.0

藻類 IC50(72) : > 1,000 mg/L (緑藻類、Pseudokirchneriella subcapitata) ; IP8)

### 12.2 残留性・分解性

イソプロパノール

活性汚泥濃度 : 30 ppm、被験物濃度 : 100 ppm、試験機関 : 2 週間、  
分解率 : 86% (BOD) : 分解性が良好と判断される物質。 ; IP9)

### 12.3 生体蓄積性

イソプロパノール

生体蓄積定数 (BCF) は約 1 (logP より算出) この値は、水棲生物に対して生体蓄積性がないと判断される ; IP10)

### 12.4 土壌中の移動性

イソプロパノール

土壌吸着定数 (KOC) は約 30 (logP より算出) この数値は、土壌環境において移動性は非常に高い ; IP10)

### 12.5 オゾン層への有害性

エタノール

当該物質はモントリオール議定書の付属書に列記されていないため。

### 12.6 その他の有害性

エタノール

水生環境有害性 (急性) : 藻類 (クロレラ) の 96 時間 EC50=1000 mg/L (SIDS, 2005)、甲殻類 (オオミジンコ) の 48 時間 EC50=5463 mg/L (ECETOC TR 91 2003)、魚類 (ニジマス) の 96 時間 LC50=11200 ppm (SIDS, 2005) より、藻類、甲殻類及び魚類において 100 mg/L で急性毒性が報告されていないことから、区分外とした。

水生環境有害性 (長期間) : 慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり (BOD による分解度 : 89% (既存点検, 1993))、甲殻類 (ニセネコゼミジンコ属の一種) の 10 日間 NOEC=9.6 mg/L (SIDS, 2005) であることから、区分外となる。慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、藻類、魚類ともに急性毒性が区分外相当であり、難水溶性ではない (miscible, ICSC, 2000) ことから、区分外となる。以上の結果から区分外とした。

### 12.7 その他

IP1) REGISTRY OF TOXIC EFFECTS OF CHEMICAL SUBSTANCE

IP2) WHO/IPCS : 「環境保健クライテリア (EHC) 」 103 (1990)

IP3) European Center of Ecotoxicology and Toxicology of Chemicals (ECETOC) TR48 (1998)

IP4) Patty's Toxicology PATTY (6<sup>th</sup>, 2012)

IP5) OECD : SIDS レポート (SIDS Initial Assessment Report) SIDS (2002)

IP6) 米国産業衛生専門家会議 : ACGIH documentation ACGIH (2003)

IP7) 環境省リスク評価第 6 巻 (2005)

IP8) 環境省環境保健部

IP9) 既存化学物質安全性点検データ

IP10) STN REGISTRY

上記以外の環境影響情報なし

# 安全データシート (Safety Data Sheet)

## マイクロジッド® プレミアムワイプ

JIS Z 7252 : 2019、7253 : 2019 準拠、国連 GHS 改訂第 7 版対応

作成日：2021年2月18日

改定日：2021年10月19日

Version: 2.0

### 13. 廃棄上の注意

- 13.1 残余廃棄物 焼却する場合、関連法規・法令を遵守する。廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者と契約し、廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）、及び関係法規・法令を遵守し、適正な処理をするように依頼する。本品は特別管理産業廃棄物に該当する。
- 13.2 汚染容器及び包装 空の汚染容器・包装を廃棄する場合、内容物を除去した後に、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物の収集運搬業者や処分業者に廃棄物処理法（廃棄物の処理及び清掃に関する法律）、及び関係法規・法令を遵守して、適正な処理をするように依頼する。

### 14. 輸送上の注意

- 14.1 国際規制（UNRTD） 該当しない
- 14.2 陸上輸送（ADR） 該当しない
- 14.3 航空輸送（ICAO/IATA）
- 14.3.1 国連番号 UN3175
- 14.3.2 国連輸送名 SOLIDS CONTAINING FLAMMABLE LIQUID, N.O.S.
- 14.3.3 国連分類 4.1
- 14.3.4 容器等級 II
- 14.4 海上輸送（IMO）
- 14.4.1 国連番号 UN3175
- 14.4.2 国連輸送名 SOLIDS CONTAINING FLAMMABLE LIQUID, N.O.S.
- 14.4.3 国連分類 4.1
- 14.4.4 容器等級 II
- 14.4.5 MARPOL 73/78 付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質 Not applicable
- 14.5 国内規制 「15.適用法令」を参照
- 14.6 特別の安全対策 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認し、転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
- 14.7 緊急時応急措置指針番号 なし

### 15. 適用法令

- 15.1 国内法令
- 消防法：非該当
- 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律：非該当
- 労働安全衛生法 名称等を表示し又は通知すべき危険物及び有害物：イソプロパノール、エタノール
- 化学物質排出把握管理促進法：非該当

# 安全データシート (Safety Data Sheet)

## マイクロジッド® プレミアムワイプ

JIS Z 7252 : 2019、7253 : 2019 準拠、国連 GHS 改訂第 7 版対応

作成日 : 2021 年 2 月 18 日

改定日 : 2021 年 10 月 19 日

Version: 2.0

---

毒物および劇物取締法 : 非該当

廃棄物の処理及び清掃に関する法律 : 特別管理産業廃棄物

船舶安全法 : 可燃性物質類・可燃性物質 (危規則第 3 条危険物告示別表第 1)

航空法 : 可燃性物質類・可燃性物質 (施行規則第 194 条危険物告示別表第 1)

港則法 : その他の危険物・可燃性物質類 (可燃性物質) (法第 21 条第 2 項、規則第 12 条、危険物の種類を定める告示別表)

---

### 16. その他の情報

この安全データシートに記載の情報は、作成年月日における情報に基づいて作成しています。注意事項等は通常取り扱い条件を対象としており、推奨用途以外の特殊な取扱いや条件下においては、その条件に合わせた安全対策を実施してください。

この安全データシートに記載の情報は、将来的に新たに得られた知見、法律・条例等の設定・改正により変更となる可能性があることをご承知下さい。